春日家に還る

正岡子規

車に乗り馬に騎って早く帰り来る

一たび双親に謁すれば喜び自ら催す

処処鶯啼いて春海に似たり

故園の芳樹吾を待って開く

【作者】正岡　子規（一八六七～一九〇二年）（慶応三年～明治三十五年）、日本の俳人、歌人、国語学研究家。名は常規（つねのり）。幼名は処之助（ところのすけ）で、のちに升（のぼる）と改めた。俳句、短歌、新体詩、小説、評論、随筆など多方面に亘り創作活動を行い、日本の近代文学に多大な影響を及ぼした、明治時代を代表する文学者の一人であった。死を迎えるまでの約七年間は結核を患っていた。